

4月28日、安倍首相がこの日を主権回復の日として政府主催の式典が行われたこの日、あいち沖縄会議主催の「4・28沖縄デー 主権回復の日なんか認めない！集会・デモ」を行いました。

沖縄出身の平良一器さんの講演と、参加者からのリレースピーチ、三線の演奏などで集会を行った後、デモを行いました。

沖縄を切り捨て、今もって米軍の駐留を許しアメリカの属国のような位置にあるこの国。憲法が押し付けられたものとするなら、日米安保条約はもっと従属的そのものではないか、と思います。

以下、当日読まれた要請書です。参加者は150人。

4・28を主権回復の日とする政府式典への抗議と、
「普天間基地撤去」
「辺野古基地建設断念」「オスプレイ配備撤回」を求める要請書

内閣総理大臣 安倍晋三 様

4月28日は1952年のサンフランシスコ講和条約で沖縄を米国の施政権下に差出し、日米安保条約で国民を対米従属下に置いた日です。政府式典は「主権回復」の虚像を国民に押し付けるものであり認めることはできません。よって強く抗議します。

私たちは平素より沖縄に押し付けている74%の米軍基地、施設を何とかしようと訴え続けてきました。1995年の3人の米兵による少女暴行事件と当時の沖縄県民の怒りを忘れることはできません。

翌1996年に日米政府が「普天間基地の返還」を合意していますが、あれから17年間、約束は実現されていません。

それどころか、墜落を繰り返し米国では訓練さえ中止されている欠陥機オスプレイが強行配備されるしまつです。日本政府はそれに抗議ひとつできないでいます。

そうであるにも拘らず、安倍内閣は1952年サンフランシスコ講和条約、第3条によって沖縄を正式にアメリカの施政権下に移管した4月28日を、「主権回復の日」として政府主催の式典を開催するとしています。一体どんな意図によるものなのか、実におかしなことであり到底容認できるものではありません。

沖縄は、本土攻防の捨石とされた地上戦で艦砲射撃と火炎放射機によって家屋も自然も焼き尽くされ、20万人が命を失う凄惨な体験をしました。その傷も癒えぬまま、講和条約で切り離されたその日から米軍によって土地を奪われ、米軍機が小学校に墜落し、幼女が暴行殺害されるなど事件事故が相次ぎさらなる犠牲に苦しめられました。戦後60年以上も外国軍の駐留を許し、沖縄は施政権が返還してもなお、地位協定によって米軍軍属の犯罪を日本の法律では裁けない理不尽な状況の中におかれています。日本政府はそれに対して何一つ異議申し立てをせず、沖縄に犠牲を強い続けています。

政府が「主権の回復」を主張するなら、沖縄に犠牲を強いつつ今もなお米軍の駐留を認めている異常な事態を直ちに改めるべきです。沖縄の民意に背を向けて、オスプレイの配備や辺野古の基地建設を進める日本政府が、米国への従属的な安保条約や日米地位協定を放置したまま、4月28日を「主権回復の日」として、ことさら声高に演出するのは誠に道義に反し、国内にも国際社会にも到底受け入れられるものではありません。

私たちは、安倍政権の4・28「主権回復の日」式典に反対し、日本の総意として「普天間基地の撤去」「辺野古基地建設断念」「オスプレイ配備撤回」に直ちにに取り組むよう求めます。

2013年4月28日 「主権回復の日」なんか認めない！集会参加者一同